

志木ロータリークラブ

2025-26年度 国際ロータリー 会長 フランチェスコ・アレツツォ 「UNITE FOR GOOD」
2025-26年度 第2570地区 ガバナー 相原 茂吉 「よいことのために手を取りあおう」
2025-26年度 志木ロータリークラブ 会長 金剛 光裕 「前進」

第2462回 例会

2026-4-8

- ◎司会 吉原 正 副会長
- ◎点鐘 金剛 光裕 会長
- ◎ソング 我等の生業
- ◎ソングリーダー 大村 相基 会員
- ◎四つのテスト 大村 相基 会員
- ◎ゲスト 佐藤 豊 様
(埼玉りそな銀行 新支店長)



ソングリーダー・四つのテスト 大村相基会員



国民の命を何とも思わないイラン政府には憤りを感じます。またアメリカ・イスラエルには国の存亡を賭けた戦いであるから大義はあるのですが、早期の戦争の終結を願います。ようやく本日、ホルムズ海峡の解放を条件に2週間の停戦がイラン、アメリカ、イスラエルで合意されたとの報道がでました。とりあえず一段落ですがまだまだ予断はゆるせません。宗教者としては、殺人は最も忌むところですが、自分たちがやられることを想定した場合どう考えるかという視点もとても大事です。

アメリカ・イスラエルを手放しで支持するわけではありませんが、マスコミを中心とする親日国イランという欺瞞はとてもひどいです。イランはイスラエル殲滅を国是とする国で、周辺の中東諸国にも喧嘩を売りまくっているわけで、どのように事態が收拾するか見守るしかないのがはがゆいです。もちろん RIは何にも言いません。

さて、たまにはお坊さんらしい話をしましょう。

「会長挨拶」

会長 金剛光裕

皆様こんにちは。会長の金剛です。

昨日は遠藤会員の下、カミナリ屋さんで複数のメンバーで懇親会を致しました。店長様の超絶焼き鳥を一人10本以上食べました。とてもおいしかったので、皆さん是非とも店長さんの在店を確認して召し上がってください。おまかせがお勧めです。メニューに無いやつも出てきます。遠藤会員、有難うございました。

さて、イランの戦争が益々混迷を深めて参りました。

人間の盾として国民を爆撃されるかもしれない発電所の周りに集まるよう指示するなど、

智慧とさとりについて少しお話しします。

智慧とは知識ではありません。

智慧をさとること。智慧をわかること。それも成仏のひとつのかたちです。では、智慧を知れば仏になれるのか。それは「半分正解」です。智慧とはただの知識ではありません。ものごとの“本当の姿”に気づくこと。表面ではなく、その奥にある真実を見る力です。そして「さとり」とは、特別なことではなく、本当の意味で「わかる」こと。「知る」「気づく」「見抜く」… そういう働きです。

たとえば、観世音菩薩の「観る」という言葉。これはただ目で見ることではありません。その人の奥にある想いや心まで感じ取ることです。私たちの「みる」には、目で見ると「観る」とは、その二つが一つになったもの。外と内、両方を同時にとらえる見方です。だからこそ智慧とは、「深く観る力」と言ってもよいと思います。

さて、今週末は会員旅行で高千穂行きです。集合は早いですが、皆様と神話の世界への旅立ち、とても楽しみにしています。

本日は國分次年度の次年度会長アワーです。

次年度の方針をお話させていただきますので、とても楽しみです。本日もよろしくお願い致します。

「幹事報告」

幹事 塩野 章



1. 国際ロータリー日本事務局よりロータリー4月の為替レート受信 \$1=¥160
2. 米山梅吉記念館より賛助会入会依頼及び館報 2026 春号 Vol.47 受信

「就任ご挨拶」

埼玉りそな銀行志木支店
新支店長 佐藤 豊様



大成支店長の後を継ぎまして、志木支店長を拝命しました。佐藤でございます。浅学菲才な若造でございますが、懸命に取り組んでまいります。ちょっとバトンが重すぎて腰が抜けそうですが頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。(談)

「退任ご挨拶」

埼玉りそな銀行志木支店
前支店長 大成綾子様



一年という短い間で何もお役に立てなかったこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。伝統ある志木ロータリークラブに参加させて頂き、皆様にいろいろなことを教えて頂き、温かく迎えて頂いたこと本当に感謝しております。ありがとうございました。(談)

「委員会報告」

●社会奉仕委員会 委員 上野剛彦
親と子の市内まるごとクリーン作戦 Part.1
志木市の大そうじ参加ご協力をお願い

5月9日(土) 8:30 集合 志木市役所
及び市内各小学校受付担当をお願いします。

出席は会員の義務です。メイクアップを忘れずに！

第2グループ各RC 例会日・会場一覧(順不同)

『ロータリーの友』記事紹介

雑誌委員会 委員 神山昌之



『ロータリーの友』4月号記事紹介

【横組】

P3 RI 会長メッセージ

「運でなく、準備こそが力」とは日頃の学びと努力ですね。

P5～ ドイ・ジョラケ丘陵の環境保全。

【縦組】

P7 「この人訪ねて」山口幸さん

人の人生とは思いと決断でしょうか。

P17 卓話の泉「夜の公共圏・スナック」

時代移り変わり、こういうこともある。

P18 ロータリーあるある相談室

是非お読み下さい。コメントは致しません。

「卓話」

「次年度会長アワー」

次年度会長 國分 学



【導入：就任の挨拶と RI 会長・地区ガバナーの方針】

皆様、こんにちは！ この度、歴史と伝統ある志木ロータリークラブの第 55 代会長を拝



命いたしました、國分学でございます。皆様、どうぞ7月から1年間よろしく願いいたします。

本日の会長アワーという大変貴重なお時間をいただきまして、私の心構えと、この1年間のクラブ運営における具体的な計画についてお話しさせていただきます。

まずは、私の「入会のきっかけ」をお話しさせていただきます。

実は、私の妻の父親が以前、当志木クラブの会員でございました。そのご縁もあり、義理の父より「ロータリーに入会してみるか」と意気込んで話は進んだのですが、現実はその甘くありませんでした。当時は入会に関して大変厳格な考えを持たれる方も多く、「義理のせがれ」という立場であった私は、なんと一度、入会拒否を受けてしまったのです。その時はショックを受け、「私には縁のない場所だったのか」と諦めかけました。しかし、そんな私に力強い救いの手を差し伸べてくださったのが、義理の父親と懇意にされていた故・高野邦夫会員でした。そして、当時の会長であられた宮原克平会員の懐の深いご判断により、入会承諾をいただき、私は晴れてロータリアンとなることができました。

一度は閉ざされかけた扉を開け、私を温かく迎え入れてくれた志木クラブ。あれは2007年度のことですから、振り返れば早いもので、今年で入会20年目となります。あの時の先輩方の温かいご恩があるからこそ、今の私があり、こうして会長として皆様の前に立たせていただいております。

この「温かく迎え入れる」という私の原体験は、今年度の我々の活動の大きな指針となる「国際ロータリー (RI)」、および「第 2570 地区」の方向性とも深く結びついています。

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■和光RC 毎週(月) 12:30～ うけら庵

■富士見RC 毎週(金) 12:30～ 島田ビル1F

■新座こぶしRC 第1・第3(水) 12:30～ ベルゼゾン

2462-3◇
志木 RC 会報

ここで、その指針を皆様と共有していきたいと思えます。



オラインカ・ハキーム・ババロラ氏

2026-27年度、国際ロータリーは、アフリカから初めての会長となるオラインカ・ハキーム・ババロラ氏を迎えます。アフリカ大陸から初のトップリーダーが誕生したということは、ロータリーがより多様で、真にグローバルな組織へと進化している証でもあります。このババロラ RI 会長が今年度掲げた力強いメッセージ、それは**「持続可能なインパクトを生み出そう (CREATE LASTING IMPACT)」**です。

会長は、我々が注力すべき4つの優先事項を示されました。

1 つ目は、長年の悲願であるポリオ根絶の最後の一押し。

2 つ目は、この分断された世界における平和の推進。

3 つ目は、クラブを温かく迎え入れる場所にするための会員増強。

そして4つ目が、地域社会に長期的で持続的な変化、すなわち「インパクトをもたらす奉仕」です。単なる一時的な支援ではなく、未来へと続く確かな足跡を残そうという強い決意が込められています。



秩父ロータリークラブ 原島生慈ガバナー

続いて、私たちが属する第 2570 地区の方向性についてです。今年度、地区ガバナーを務められる秩父ロータリークラブの原島生慈ガバナーは、**『ロータリー活動に誇りを』

**という、我々の胸に真っ直ぐに響く素晴らしいテーマを掲げられました。

原島ガバナーからは、次のような言葉をいただいております。「存分にリーダーシップを発揮してクラブの未来のための1年にしてください。そしてこの年度がクラブ飛躍の初年度となるよう一緒に頑張りましょう！」と、我々に対して大変力強く、そして温かい激励のメッセージをいただいております。

ババロラ RI 会長が掲げる「持続可能なインパクト」。そして原島ガバナーが仰る「活動への誇り」。これらの重みのあるメッセージをしっかりと踏まえた上で、私たちがこの志木という我々の足元の地域で、今、何をすべきか。それに対する私なりの答えとして、私自身のテーマを発表したいと思います。

【第1部：就任の基本理念と地域社会との連携】



今年度、私が掲げる國分年度としてのテーマ、それは**「志木 SHIKI プライド」**です。

我々ロータリアン、一人ひとりが、自分たちの活動拠点である「地域への誇り」を持ち、「志木市にとって頼りになる志木クラブ」を目指してまいります。

平時だけでなく、いざという時にこそ真先に頼られる、持続可能なインパクトを地域に生み出す存在にならなければなりません。

地域の
官・民・学との連携

では、頼りになる存在となるためにはどうすればよいのか。そのためには、我々単独の力だけでは限界があります。「地域の官・民・

学との連携を取り、行政・民間企業・大学の協力のもと、志木市に必要とされる志木クラブとなるための活動をしていく」ことが不可欠です。これら三者が持つ専門的な知見や幅広いネットワークを結集し、我々ロータリークラブがその中核・結節点となることで、真に地域から必要とされるクラブになれると確信しております。

この「官・民・学の連携」という点について、少し私自身のエピソードをお話いたします。私自身、これまで皆様市民の多大なるご協力をいただき、そしてこの志木クラブの皆様にも力強い出資をいただきまして、「志木街づくり会社」を設立いたしました。この会社は、筆頭株主である志木市、そして志木市商工会とともに、まさに三位一体となって志木市を盛り上げていくための組織です。行政と、地域のビジネスリーダーが集う商工会、そして我々ロータリアンが知恵を絞り、一丸となって街の未来を描いていく。これこそが、私が理想とする持続可能な地域連携の形の一つです。

さらに、こうした「官・民・学との連携」を未来へ繋いでいくために、当クラブでは昨年設立した「戦略委員会」の中に、新たな小委員会を作ります。ここでは、これからのクラブを担う若手ロータリアンたちが結集し、熱い議論を交わし。彼らの力で、まずはロータリーデーの基本となるべき、新しいイベントを企画し、将来的には、第2グループのIM（インターシティミーティング）に代わるような、画期的で地域を巻き込んだ大型イベントが開催できればと、大きな夢を描いております。

【第2部：第2グループ、そして2570地区における我々の使命】

次に、我々を取り巻くロータリーにおける「我々の立ち位置」についてお話しします。

50人クラブとして グループのリーダー としての自覚を持つ

現在、我々が所属する第2グループは「地

区内で一番少ない会員数」であるという現状があります。数字だけを見れば、厳しい状況だと捉える方もいるかもしれませんが。しかし、悲観しているわけではありません。なぜなら、我々には「50人クラブとしてグループのリーダーとしての自覚を持つ」ことこそが重要だからです。人数の少なさを言い訳にするのではなく、この50名という規模だからこそその圧倒的な機動力、そして何より会員同士の深い絆をもって、第2グループ全体を力強く牽引していく存在となるべきだと思います。

志木クラブから ガバナーの輩出を 目指す

そして、そのリーダーシップは第2グループ内にとどまるものではありません。「2570地区における志木クラブの存在をアピールしていく」必要があります。我々には果たすべき高い目標があります。それは、「西川武重郎ガバナー以来の、新たなガバナー輩出を目指す」ことです。地区全体を代表するような影響力を持った人材を育み、支える土壌を作っていく。それこそが、まさに「志木SHIKIプライド」の体現に他なりません。

ガバナーを輩出するということが、いかにクラブにとって誇りであり、また強烈な絆を生むのか。ここで、皆様もよくご存知の、故・西川武重郎パストガバナーの思い出をお話したいと思います。

西川ガバナーが就任されたその年に、あの大災害、3.11東日本大震災が発生いたしました。日本中が深い悲しみと混乱に包まれ、当地区でも地区大会など、予定されていたほとんどのイベントが中止に追い込まれました。しかし、当時のガバナーの方々はまだ立ち止まることはしませんでした。被災地復興への強い思いから立ち上げたのが、「希望の風の基金」です。この素晴らしい支援事業は、あの震災から15年もの長きにわたり、現在まで

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■和光RC 毎週(月) 12:30~ うけら庵
■富士見RC 毎週(金) 12:30~ 島田ビル1F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧(順不同)
事務局 048-455-0088
事務局 049-251-6596

2462-5◇
志木RC会報

途切れることなく続いている事業となっています。これこそがまさに、RI 会長の言う「持続可能なインパクト」の実践ではないでしょうか。

そして、その激動の年度の終わるころのお話です。当時、親睦委員長を務めていた私に、西川ガバナーがこう仰られました。「自粛ばかりでは世の中のためにならない」と。その一声で、急遽、我々は親睦旅行を企画し、箱根へ行ってまいりました。当初は 30 人ほどが参加する予定だったのですが、世の中の強い自粛ムードの影響もあり、最終的な参加人数は半分以下の 12 人ほどに減ってしまいました。しかし、参加人数は減ったものの、懇親会での芸者さんは当初の予定通り減らさず 4 名お呼びしました。人数が少ない分、かえって距離が近くなり、2 次会でも大いに盛り上がってしまい、結果として結構な花代(費用)がついてしまったのです。

この事態に、クラブ内の重鎮会員が激怒してしまい、その場は一瞬にして不穏な空気に包まれました。親睦委員長であった私は本当に肝を冷やしたわけですが、そこで動いてくださったのが、その重鎮会員の同級生でもあった西川パストガバナーです。西川ガバナーが見事に間に入って円満に場を収めてくださり、最終的には参加者全員が 1 万円を払うということで綺麗に解決いたしました。これが、当クラブで語り継がれる、かの有名な「芸者事件」でございます(笑)。

笑い話のようですが、この出来事の中に、私はロータリーの真髄を見ました。厳しい時代であっても仲間と語り合う場を守る決断力、そして、いざトラブルが起きた時に互いを許し合い、腹を割って解決できる深い絆と度量。これこそが、ガバナーを輩出するクラブの「懐の深さ」なのだと、私は強く感じています。

【第3部:組織を強固にするための具体計画】

こうした数々の歴史と絆を引き継ぎ、今年度をさらなる飛躍の初年度とするため、「主な 1 年間の計画」として次の項目を実行に移してまいります。

1 つ目は、例会の充実です。皆様との語らいの場を何より大切にするため、**「コロナ

Rotary 志木ロータリークラブ

「毎週例会に戻す」昼 2 回夜 2 回

パーレス化する

「新会員へのカウンセラー制度」
「居場所づくり」

アップmake upの推奨

「すべての紙資料をペー

「退会防止のために全力を尽くす」

「大型クラブへのメイクア

前の毎週例会に戻す」**決断をいたしました。具体的には、各月に「昼の lunch 例会を 2 回・夕方の evening 例会を 2 回」とし、多様な働き方やライフスタイルを持つ会員の皆様が、バランスよく参加できる環境を整えます。

2 つ目は、業務効率化と SDGs の観点から **「すべての紙の資料をなくしペーパーレス化する」** ことです。これまで、理事会や例会の資料として膨大な紙の山が築かれ、そして、そのほとんどが最終的には捨てられてきました。今はもう、ほとんどの会員がスマートフォンを持ち、メールや LINE でビジネスのやり取りや買い物を当たり前に行っている時代です。私の年度からは、すべての資料をメール、もしくは LINE で皆様に送らせていただきます。もし、どうしても紙で見たいという方がいらっしゃいましたら、ご自身の会社でコピーをしてお持ちください。これにより、紙の無駄がなくなり、事務局の労力も劇的に軽減されます。クラブを未来へ適合させるための変革として、皆様の寛大なご理解とご協力をお願い申し上げます。

3 つ目と 4 つ目は、会員基盤の強化です。今年度は**「退会防止のために全力を尽くす」** ことを強く宣言いたします。せっかく志を同じくして入会していただいた仲間を失うことは、クラブにとって最大の損失です。そのための具体策として、「新会員へのカウンセラー制度」を導入し、クラブ内での確固たる「居場所づくり」を行います。また、クラブ内にこもるだけでなく外からの刺激を取り入れるため、「大型クラブへのメイクアップ (make up) の推奨」を行います。大規模クラブの熱量を肌で感じ、そのノウハウを志木クラブに

持ち帰っていただきたいと思います。

5 つ目は、クラブを支えるコミュニティの再構築です。今年度、**「夫人の会の復活」**をいたします。ロータリーの活動は、決して我々本人だけの力で成り立っているわけではありません。ご家族の支えがあってこそです。現役会員の奥様方だけでなく、「元会員のご夫人も含む」形とし、クラブの歴史を支えてくださった方々とも、より広く温かい絆を再び築いてまいります。

そして最後は、親睦旅行についてです。今年度は**「親睦旅行は1泊2日と2泊3日にして中日なかびで合流する」**という画期的な形式を採用いたします。お忙しい方は1泊2日を選び、ゆっくり語り合いたい方は2泊3日で。各自のスケジュールに合わせて柔軟に参加でき、それでいて中日なかびには全員が顔を揃えて一体感を味わえる。誰もが参加しやすく、心から楽しめる素晴らしい旅行にしたいと考えております。

【結び:共に「志木 SHIKI プライド」を胸に】

そろそろお時間となりますが、皆様、私たちにとってロータリークラブとは何でしょうか？ 私にとっては、まさに「人間勉強の場」だと思っています。

ロータリークラブに入会してまだ間もない40代のころ、会社で朝の準備が間に合わず、社員に激怒し、精神的にも体力的にもへとな状況で、しょうがなく例会に参加していた時期がありました。しかし例会に参加すると先輩会員に「どうした？元気がないな、心配するな、なんとかなるから」とまあ意味もなく声を掛けられ、飲みを誘われ、いろんな先輩会員と話していくうちに自分自身が平常心に戻り、素直な気持ちになり、「社員に悪かったな」と声をかけられる、そんなことが何度もありました。

人間の悩みはほとんどが人間関係です。その問題は人間が解決していく。ロータリークラブがなければ今の私はこの場所に存在しないし、多くの仲間を得ることはできませんでした。ロータリークラブは、まさに「人間塾」だと思っています。

皆様、本日は長きにわたり、私の所信と具体的な計画に耳を傾けていただき、誠にあり

がとうございます。行政、民間企業、大学の協力を得て、地域から真に頼りにされる持続可能なクラブへ。そして、50人クラブとしての強い絆と誇りを持ち、地区に我々の名をアピールし、未来のガバナーを輩出する強いクラブへ。

その道標となるのが、今日お話しした一つひとつの計画であり、原島ガバナーが仰る「ロータリー活動への誇り」。すなわち、皆様の心の中にある「志木 SHIKI プライド」ではないでしょうか。

この1年間、第55代会長として、私は全身全霊を傾けて邁進する覚悟でございます。どうか皆様、この年度がクラブ飛躍の素晴らしい初年度となれるよう、ご協力いただければ幸いです。

どうか7月から1年間、よろしくお願い申し上げます。ご清聴、誠にありがとうございました。



4月は「母子の健康月間」です



スマイルボックス 宮原一副SAA